

町内会におけるデジタルツール活用事例集 (抜粋版)

町内会における運営上の課題解決のために、デジタルツールを活用する団体が増えてきています。この事例集（抜粋版）では、市内4つの町内会のデジタル化の取り組みと鹿児島市による支援を紹介しておりますので、町内会のデジタル化、役員の負担軽減に向けた取り組みの参考にいただければ幸いです。

また、市ホームページでは、抜粋版掲載の事例を含む8つの取組事例と「デジタル化の始め方」や「デジタルディバイド（情報格差）対策」なども紹介しておりますので、ぜひご覧ください。



【活用事例集】

◆事例1◆ LINEオープンチャットを 活用したデジタル回覧板

《基本情報》
エリア：松元
世帯数：約200世帯
班数：3班
平均年齢：30～40歳

デジタル回覧板の導入により 班長の負担軽減と会員の満足度向上を実現

背景

- 会員は共働き世帯が多い
- 班長の大きな負担である毎月2～3回の回覧業務の軽減を図りたい

取組

- 電子回覧板の入会手引きの作成
- LINEオープンチャットの試行開始

工夫したポイント

- ◆ 紙の回覧板で電子回覧板のメリット・デメリットを説明
- ◆ 希望者への紙回覧板の併用実施
※回覧ルートの再編成、個別ポスティング（回覧不要）
- ◆ 操作が不安な会員には、班長が操作サポートを実施

結果

- 班長の業務負担が軽減
- タイムラグのない情報伝達による不公平感の解消
- 不審者情報などのリアルタイムな共有による防犯意識の向上

町内会の声

町内会行事について、直前の告知や写真・動画によるリアルタイムな情報共有ができるため、**行事への参加者が増えました。**

また、活動報告も写真付きですぐにできるので、**役員のモチベーションアップ**にもつながっています。

◆事例2◆ グループLINEを活用した 役員間での情報共有

《基本情報》

エリア：中央
世帯数：約600世帯
平均年齢：60歳
役員数：18人

デジタル化で情報共有の効率化を実現 コミュニケーションの増加、省力化にもつながる

背景

- 役員間で紙か電話での情報共有を行っており、効率化が課題



取組

- 目的、階層に応じた5つのグループを作成
- 役員会で操作説明会を実施

工夫したポイント

- ◆ スマホ操作が不安な方へ
⇒ 役員会の場で登録をサポート
- ◆ スマホを持っていない方へ
⇒ SMS（ショートメッセージサービス）による情報共有



結果

- 瞬時の情報伝達による情報共有の効率化
- 簡単な内容は会議ではなく、グループLINE上で意見交換や判断が可能に
⇒ 役員間コミュニケーションの増加と省力化

町内会の声

会議前に資料をグループLINEで共有することで、出席者は**事前に内容を把握**できます。そのおかげで、当日は**議論が活発**になり、**いい意味での雑談も増えました**。
また、役員の活動（資源物回収、掲示板作成など）をグループLINEで共有することで、お互いの活動が見えるようになり、**活動への理解が進んでいます**。

鹿児島市による支援①

【地域活動におけるデジタルツール活用の手引き】

市では、デジタルツールの活用を検討する際に、参考としていただくための手引きを作成しています。

デジタル回覧板や、オンライン集金に活用できるツールの比較や活用のポイントなどを紹介していますので、ぜひご活用ください。詳細は二次元コードを読み取りご確認ください。



【活用の手引き】

◆事例3◆

ホームページ（Googleサイト）を活用した情報発信

《基本情報》

エリア：中央

世帯数：約1,300世帯

平均年齢：65歳

ホームページ開設により利便性向上 デジタル人財発見の一助にも

背景

- 若い世代の加入促進が課題
- インターネット検索への対応が必要
- 回覧板による情報共有は時間がかかる（補完するツールが必要）

取組

- 市主催のデジタルツール活用支援講座と講師派遣を活用
- ホームページ作成にあたり、協力者を地域内で募集
- 催しの開催可否の判断をホームページで周知

工夫したポイント

- ◆ 紙の回覧板と併用、紙にホームページの二次元コードを記載
- ◆ ホームページ作成の協力を事業者含めて広く依頼

結果

- 公民館の予約状況を可視化したことで利便性が向上
- 地域内のデジタルに詳しい人財の発見

町内会の声

会員内でホームページ自体の認識がまだ不足しているので、継続的に**ホームページに関する周知**を行っていく必要があると思います。特に高齢者に焦点を当てたお知らせを行っていきたいです。

今後の町内会運営を考えると、顔を合わせるなどの**アナログな部分も必要不可欠**ですが、**デジタル化をうまく取り入れていく**必要もあると思います。

鹿児島市による支援②

【町内会におけるデジタルツール活用支援講座】

町内会活動等の情報発信の強化や誰もが参画しやすい組織運営を支援するため、地域住民向けの情報発信や役員間の情報共有に関するデジタルツールの活用について学ぶ講座と導入に向けた講師派遣を実施しています。

詳細は、二次元コードを読み取りご確認ください。



【活用支援講座】

◆事例4◆
オンライン集金
(クレジットカード決済)

《基本情報》
エリア：谷山
世帯数：約600世帯
平均年齢：65歳

オンライン集金により班長の負担軽減
スマホ教室で会員のデジタルリテラシー向上

背景

- 区域内に新しい団地ができ、30～40代が増加
- 共働き世帯も多く、集金時に不在、再度の訪問が必要
- 会費の徴収業務が班長の負担

取組

- 範囲を限定しテスト運用を実施

工夫したポイント

- ◆ 現行の戸別集金も選択可
- ◆ デジタルアドバイザー（会員）による班長への操作研修
- ◆ 年間スケジュール、Q & A作成
- ◆ 協力者への謝金等に市の補助制度を活用

結果

- テスト運用の範囲において「9割」がオンライン集金を活用
- 戸別訪問の減少により、班長の負担が軽減

町内会の声

オンライン集金導入に向けて、年間スケジュール、Q & Aを作成したことで、会員の理解を得やすかったと思います。テスト運用のフィードバックも取り入れて、全体に広げていきたいと思っています。

また、会員のデジタルリテラシー向上も必要と思い、オンライン集金とは別に、スマホ教室を実施しました。高齢者は、スマホを持っているが、通話だけで、ほぼ使えていない人も多く、とても好評でした。

鹿児島市による支援③

【町内会デジタル活用促進補助金】

デジタルツールを活用して役員等の負担軽減や情報発信の強化、活動の魅力向上に資する取組を実施する町内会に対して経費の一部を助成します。

対象経費などの詳細については、二次元コードを読みとりご確認ください。



【デジタル活用促進補助】

《連絡先》鹿児島市地域づくり推進課
コミュニティ係

TEL：099-216-1214 FAX：099-216-1207
Mail：chi-community@city.kagoshima.lg.jp